

◇開催日時 2021年7月30日(金)19時～21時

◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修

◇参加者 16名

◇内容

1. 「水問題を考えよう」: 平群町立平群北小学校・中澤哲也先生の実践報告から

・獲得させたい概念的知識が明確にされている

- ・水道局の人は私たちに安全で安定した水を届けるために、ダムや浄水場などの施設を計画的に整備している。
- ・水道局の人たちの工夫や努力・市町村の協力があって、私たちは毎日安心して水道水を使用することができる。
- ・水は限られたものなので、今後は自分たちも使用の仕方を考えなければならない。

- ・単元の最終段階で「どのような子どもの姿への変容」を目標としているのかも明確にした方がいい。
- ・小学校の実践で、担任が児童を把握し、発問に対する児童の反応を的確に予想して単元展開を考えているのは参考になる。
- ・人との出会いが子どもの価値観の変革を促す(あこがれから)。本実践においては、浄水場など水を作る仕事をされている方との出会いを想定されているが、災害等で水に困った経験のある人からの話もあると、水が自由に使えることを当たり前と捉えていることをくつがえすために、効果的ではないか。
- ・発信について、一人1台アイパッドがあるので、それを使った発信もいいのでは。
- ・教育効果において、頭では理解していても行動変容には至っていないことを発見させる上で、用意された動画は効果的だった。
- ・単元終了後だけでなく、教育効果が長続きしたとき、「価値観が変わった」と言えるのではないか。
- ・学校内での学習に閉じることなく、①家庭・地域へ水の使い方を広げていく、②水質をよくしていくための行動変容を促していく、といった広げ方もあるだろう。水源地の川上村の取組を紹介するのもいいのでは。
- ・水の使用量をグラフで示したのはよかった。使用量の変化を校内の教員や子ども達にタブレットで発信すると、より効果が出るのではないか。
- ・水道の蛇口にリボンにつけて「見える化」という取組を聞いたことがある。リボンを付けたときと付けなかったときで、使用量を比較すると児童にとって効果がわかりやすいのでは。
- ・水道水の利用の場面は、手洗だけでなく、水洗トイレや掃除時間の水の使い方がある。具体的に使う場面を示した方が効果が出るだろう。
- ・節水を地域に広げていくためには、節水することが浄水場のエネルギー使用量を減らし、化石燃料の使用量の減少、温暖化抑止にもなることを伝えていくのが効果があるだろう。
- ・水を作るために、多くの薬品を使っていることを伝え、節水が薬品の使用量を節約することにつな

がることも伝えるといいだろう。

- ・本単元終了時には、浄水場の人達が安全でおいしい水を作り、的確に配水するために努力されていることに気づくだろう。一方で、ペットボトルで販売されている「水」を購入している家庭も多いはずだ。ペットボトルの使用は海洋プラ汚染の原因にもなっている。日常生活をクリティカルに問い直すきっかけになるといい。

2. 問いから授業を作る

授業の主役は子どもである。発問に対する子どもの反応を的確に予想し、単元展開を考える。

そのため、質の高い「問い」を作ることが重要だ。

- ・単元をつらぬく問い（核となる問い）
- ・深める問い
- ・発展させる問い

PALLET HOUSE JAPANを教材として、質の高い「問い」を考える

本ワークショップにおけるチャットの記録

- ・川崎（耳成南小）から全員に: 08:46 PM
パレットを見せて、この後どうなるのか？
これは何をやるものでどれくらい排出されるのか
- ・永田郁子（滋賀大学附属）から全員に: 08:47 PM
単元の流れ。なぜ廃材を使って家具をつくるのか、自分はこの家具を買うのか、他にも廃材をつかったものづくりはないのか の3ステップです
- ・中澤哲也（平群北小）から全員に: 08:47 PM
(導入) 自分の家でできるだけ大事にしているものは？
(導入) 自分の家でまだ使えるのに捨ててしまっているものは？
毎日教室で出る消しかすを有効利用するには？
社長はなぜ、このようなことをしているのか？
「循環」に気づくような問い（まだ考えていませんが・・・）
- ・島俊彦（大牟田市立吉野小学校）から全員に: 08:47 PM
どうしてこの事業をやろうと思った（大町さん）？
どうして、こんなことをしている？ どうして「誰もやらない、だから私がやる」？
5年社会科から繋げて、社長の生き方にアプローチしてもよいかなという話になりました
- ・shinya kouno から全員に: 08:47 PM
 - ・みんなのみのまわりにあるモノは、どんな「寄り道」ができるかな
 - ・どうしてこの人はこんな家具を作ろうと思ったのかな
 - ・みんなならこの家具、買う？
 - ・牛舎の人はどんなことを考えているのだろう
- ・河野先生の製品一連の流れをスゴロクのように捉えるのがおもしろい。
- ・採取・製造・使用・廃棄 という流れでLCA（中澤）ライフサイクルアセスメント）を意識づけると汎用性のある考え方を育てることになる。



